

# 競技注意事項

1. 本大会は2024年度公益法人日本陸上競技連盟競技規則と本大会申し合わせ事項に基づいて実施する。
2. 練習場および練習について
  - ・競技開始前は本競技場を使用してよい。ただし、跳躍や投てきの練習は認めない。  
競技開始20分前までとする。時刻までに後片付けをし、速やかに本競技場から退場する。
3. 競技者の集合について
  - ・招集開始時刻および招集完了時刻はその競技開始時刻を基準とする。  
(競技開始時刻が変更されることもあるので注意すること)
  - ・トラック選手では腰ゼッケン(胸ゼッケン)を机の上に置いておくので選手自ら取り自ら付ける。  
(自分のレーンナンバーを間違わないように付けること)
  - ・第一点呼を行う。第二点呼は、競技開始30~15分前にアスリートビブスの点検を受け、氏名確認後、競技場へ誘導される。
  - ・リレーについてはオーダー用紙を提出してもらい一時点呼とする。第4走者は間違わずにレーンナンバー(腰ゼッケン)を付ける。
  - ・小学生に関しては関係団体の代表者に出場の手続き等指導してもらう。
  - ・招集完了時刻に遅れた者は棄権したとみなし処理する。
  - ・招集完了時刻に、同時または前後して他競技にも出場する者は当該競技役員にその旨申し出る。
4. アスリートビブスについて
  - ・定められたアスリートビブスを背と胸にしっかり付けること。ただし、跳躍競技の競技者は、背または胸に付けるだけでもよい。
  - ・トラック競技では写真判定をするので、腰ナンバーカードをランニングパンツの右側後方にしっかり付けること。  
リレーでは第4走者だけが付ける。
  - ・長距離競技については、黄色の胸ナンバーカードも自分で机の上から取り胸に付ける。
  - ・トラック選手はフィニッシュしたら腰と胸ナンバーカードを指示されたカゴに自分で入れる。
5. レーン順 競技順
  - ・トラック競技の走路順、フィールド競技の試技順はプログラム記載どおりとする。  
なお、フィールド種目(走高跳を除く)は、3本の試技で行う。コンバインド種目(走幅跳・ジャベリック)は2回の試技、走高跳は、一つの高さについて2回までの試技とします。
  - ・トラック競技で欠場者のレーンはそのままあける。
6. 競技について
  - ・トラックレース予選の棄権者により、出場者が8名以内(小中学生9名以内)の場合は、予選をやめ、決勝の時刻に行う。また、リレーについてチーム数によって3・4年同時、及び5・6年同時スタートとする。
  - ・リレー競技のオーダーの申告は、招集完了時刻の1時間前までラウンドごとに行う。
  - ・不正スタートは、小学生においては同一競技者の2回目を失格とする。
  - ・競技規則 TR16.5の取り扱いについて
    - ①小学生は「不適切行為」は適用せず注意を与えるものとする。
  - ・出走合図は、小学3年生以上は英語合図とし、小学2年生以下は日本語合図とする。
  - ・小学4年生以上短距離のスタート方法は、クラウチングスタートとする。(3年生は推奨する)
  - ・タイムレース決勝については、申込記録により上位・下位に分け、組み分けを行う。
  - ・事故防止のため短距離競走ではフィニッシュ後も自分のレーンに沿って走り通すように、また、リレー競争の場合、バトンを受け渡した後も自分のレーンに留まり、競技終了後退場する。なお、レーン内に貼るマーカー(最大50mm×400mm)は自チームで用意し、終わったら必ずはがす。
  - ・走高跳のバーの上げ方は下記のとおりとする。(天候等の事由で高さを変更することもある)

	練習	1	2	3	4	5	6	7	以降3cmずつ
5年男	95	100	105	110	115	120	125	130	
5年女	90	95	100	105	110	115	120	125	
6年男	100	105	110	115	120	125	130	135	
6年女	95	100	105	110	115	120	125	130	

※はさみ跳びとする。

- ・ジャベリックボール投の助走は15m以内とする。
- ・競技者に対する助力については、競技規則TR6.3.2に基づく。競技者はビデオ装置、レコーダー、ラジオ、CDプレーヤー、トランシーバーや携帯電話もしくはそれらに類似した機器を競技区域内で所持または使用できない。また、競技規則TR6.4.5フィールド種目に出場している競技者が、当該競技者に代わり競技区域の外にいる者によって録画されたそれ以前の試技の映像を見ること。その録画再生機器や録画映像は、録画映像を提供する者のすぐ近

くの位置であれば競技区域内に持ち込むことが認められる。映像をより詳しく見るために、競技者は映像を撮影した人とコミュニケーションを取りながら録画再生機器を手にしても良い。

- ・2種目を兼ねる選手についてはトラック競技を優先とする。しかし、出発係やフィールド審判員に告げ、他の種目の進行を考えながら、ぎりぎりまで試技を行うことが賢明である。

(参考) ※ルール上、各試技ごとに一度のみ決められた順序によらないで、その試技を試すことができる。しかし、その時間が過ぎればパス扱いとなる。

※一般的には、自分の優先種目を決め、時間がなければ他の種目を捨てて一本に絞り、記録に挑戦するのが賢明である。特に小学生は、監督やコーチの配慮が必要である。

#### 7. 競技場の入退場について

- ・競技場は、その競技をする選手と競技役員だけが入場することができる。それ以外の者は競技場に立ち入ることはできない。
- ・選手は本部前（表彰台付近）を通過することはできない。ただし、表彰の時はその限りではない。
- ・競技を終了した選手は次のように退場する。
  - ※トラック競技 フィニッシュ側より外に出て、スタート地点に戻り、衣服等を持ち帰る。  
決勝の場合は、入賞者（3位まで）は表彰控場所へ移動する。
  - ※フィールド競技 審判員の指示に従い、安全に外側フィールドを通り自席へ戻る。  
入賞者（3位まで）は、審判員の誘導で表彰控場所へ移動する。
  - ※2種目兼ねて出場している選手は、審判員に告げて他の競技に素早く対応する。
  - ※リレー競技に出場した選手は最寄りの出口から退場する。

#### 8. 競技用具について

- ・スターティングブロックの使用は、原則として本競技場備え付けのものを使用する。使用は、100m、80mH、400mRの決勝時のみ。
- ・投てき種目の器具は、競技場備え付けのものを使用する。
- ・砲丸は、男女共2.721kgを使用する。

#### 9. スパイクシューズについて

- ・スパイクシューズの使用は自由とする。小学生のスパイクシューズはできるだけ短いピンが望ましい。
- ・全天候型スパイク及びピンを使用する。ピンの長さは9mm以下。走高跳は12mm以下。  
本競技場ではニードルピンの使用も認める。

#### 10. 表彰について

- ・トラック競技並びにフィールド競技で3位までに入賞した選手は表彰控場所で待機し表彰を受ける。  
(リレーは8位までに賞状と3位までにメダルを贈る) 4位～8位までの賞状は本部横に置くので取りに来ること。
- ・表彰を受けるもので他の競技に出場する場合、審判員または表彰係に告げて対応すること。また、表彰は代理でもかまわない。
- ・優秀な成績を収めた選手に「優秀選手章」を授与する。

#### 11. 応急処置について

- ・医務室は本部内に設けてあり、応急処置までの用意がある。

#### 12. 競技運営方法について

- (1) 走幅跳とコンバインドB（走幅跳・ジャベリック）に出場した場合、同時刻で競技を行う場合は、走幅跳は3回の試技で順位を決定する。コンバインドの走幅跳については、2回試技し良い記録が得点化される。従って、コンバインドの選手は合計5回試技を行うこととなります。
- (2) ジャベリックとコンバインドB（走幅跳・ジャベリック）についても、(1)と同様の考え方でジャベリックが5回の試技となります。
- (3) 走高跳とコンバインドA（80mH・走高跳）に出場した場合、走高跳とコンバインドの走高跳には工夫をして競技を行います。通常の走高跳は一つの高さの試技は3回まで。コンバインドの走高跳は工夫をしていきます。例として、女子の走高跳とコンバインド男子走高跳というようにコンバインドと分かるようにします。試技は一つの高さに2回まで。（男子の走高跳時に女子のコンバインド走高跳）
- (4) 80mHとコンバインドA（80mH・走高跳）は、80mHを2回走ることとなりますが、時間を空けて行います。

#### 13. その他

- ・第42回北海道小学生陸上競技大会の詳細は、北海道陸協のHPにて確認のこと。又、全道小学大会については、道南陸協からのお知らせもあるので、道南陸協のHPも確認してください。
- ・競技終了後、または各自帰宅する時、その周辺の清掃をする。（ゴミは持ち帰ること）
- ・トイレ使用については、備え付けのトイレトペーパー以外を便器に捨てないこと。また、汚さないように十分注意して使うこと。
- ・自販機等により購入のペットボトル・びん・缶類はすべて持ち帰ること。
- ・落とし物については、競技会終了までは大会本部が預かり、それ以降は競技場事務所が預かる。